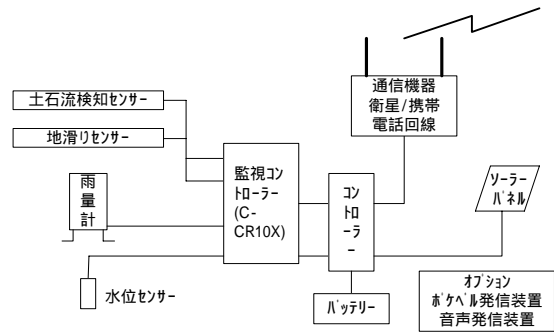


地滑り・土石流監視システム WCKS-06

概要

土石流、地滑り監視・計測は、山間地で発生する災害なので、通常人里離れた電源、通信設備のない地域で行われることが多いです。このシステムは、電源や電話線さらに携帯電話も利用できない地域においても土石流、地滑り監視・計測を可能にするためのシステムです。オプションで、ポケベルや携帯電話への音声メッセージも可能です。



< 異常時発報 >

設定基準に達すると自動的に現場から通信してきます。通常は1日に1回、事務所側からデータを回収しますが、異常時には現場から自動的にデータを送ってきます。このような通信方法により、厳しい環境下での電話代、電力を節約することが可能です。

判断基準要素	設定レベル	レベル1での動作	レベル2での動作
ひとあめ雨量	2	毎時発報	10分発報
水位	2	毎時発報	10分発報
土石流センサー	1	即時発報	

現場からの発報解除は設定レベルの下限設定値により自動的に通常レベルになります。ポケベル・携帯電話への発報は、設定基準を上回ったときのみです。

< センサー >

標準では、土石流センサー（ワイヤーセンサー）、水位センサー、雨量センサーで構成されますが、地滑りセンサー、ひずみセンサーなどその他のセンサーも各種追加することが可能です。

< 通 信 >

一般の公衆回線、専用回線のほか、携帯電話、衛星電話が可能です。

衛星電話の場合は、南側水平面より30度以上の空が見えることが条件です。（静止衛星のため）

< ポケベル・音声発報...オプション >

現場からの発報はデータ通信なので、事務所のPCをターゲットにしています。防災担当者むけに直接現場から緊急の連絡をすることが可能です。8警報接点入力で4カ所までの発報が可能です。ポケベルに定型文書と、携帯電話に定型文の音声メッセージが可能です。

ポケベルメッセージの例：「Aチテンハ スイイガ 5Mヲコエマシタ」
「Aチテンハ ウリヨウガ 100MMヲコエマシタ」

< 電 源 >

ソーラパネルで電源を供給します。非常時の現場発信を含めると、最低30Wから通常120Wで構築することが可能です。バッテリーは60～120Ahになります。

水位雨量ロボット、みずあめロガー、C-CR1000などに接続すると、簡単にテレメータ

システムが構築できます。太陽電池を電源として通信することが可能です。

通信システムと電源は分離しますので、もし、通信系がダウンしても、計測は継続されます。

仕 様

監視コントローラ	データロガーC-CR1000と同じ。 内部プログラムでコントロールプログラム 標準設定以外にも変更可能 メモリー128KB、1M、2M
監視条件	水位、雨量、レベル各2点が標準
センサー	土石流センサー、地滑りセンサー、水位計、雨量計、ひずみセンサーほか
電 源	ソーラパネル（120W）+ 鉛電池（120Ah）
モ デ ム	1200B（衛星）～9600BPS（携帯）
通 信	衛星電話、携帯電話、一般電話
消費電力	非通信時 0.1W、衛星通信時 36W
電源コントロール	インテリジェントに制御。
動作環境	通信機器以外は-25または、-55～80
オプション	ポケベル発信装置